



ミヤコタナゴを守るためにできること

- 絶滅しそうな生きものは、捕らない。飼わない。
- 絶滅しそうな生きものは、あげたり、もらったりしない。
- 捕ってきた生きものを、違う場所に放さない。
- 飼っている生きものを、野外に放さない。
- 川や水路を汚さない。きれいにする。
- 生きものや自然に興味をもって調べてみる。



CHIBA

ミヤコタナゴ

～千葉県に残る、絶滅のおそれがある淡水魚～



ミヤコタナゴを見られる施設

県内

- 千葉県いすみ環境と文化のさとセンター（いすみ市）
- 千葉県立中央博物館（千葉市中央区）
- 千葉県立中央博物館大利根分館（香取市）
- 千葉県水産総合研究センター内水面水産研究所（佐倉市）
- 鴨川シーワールド（鴨川市）
- いすみ市・御宿町の役所など



県外

- すみだ水族館（東京都墨田区）
- 井の頭自然文化園（東京都武蔵野市）
- 公益社団法人観音崎自然博物館（神奈川県横須賀市）

これらの施設では普及啓発のための展示だけでなく、ミヤコタナゴの保護もおこなっています。

生息地ごとに増やして飼育することで、それぞれの生息地に異常があっても絶滅しないようにするためです。



ミヤコタナゴを守るための法律

- 文化財保護法：昭和49年に、国の天然記念物に指定。
 - 種の保存法*：平成6年に国内希少野生動植物種に指定。
- これらの法律により、ミヤコタナゴを無許可で捕獲や飼育、譲渡することは禁止されています。違反した場合には罰則が設けられています。

*種の保存法：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律



千葉県

CHIBA

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

ミヤコタナゴとはどんな魚？

ミヤコタナゴは、関東地方にだけ生息する、とても貴重なコイの仲間です。オスは繁殖期に体の色が鮮やかになり、とても美しいことから、古くから人々に親しまれてきました。しかし近年、絶滅の危機に瀕しています。

その大きな理由の一つとして、「二枚貝の中に卵を産む」という、タナゴの仲間の持つ変わった性質が挙げられます。卵を二枚貝に守ってもらえるという利点がある反面、二枚貝が減ってしまうと、ミヤコタナゴも一緒に減ってしまいます。そのため、ミヤコタナゴを守るには、二枚貝もあわせて守らなければいけません。

【ミヤコタナゴ】学名 *Tanakia tanago*、全長約50mm、野外での寿命は2年程度。わき水の豊富な谷津田や小河川などに生息。二枚貝（マツカサガイなど）に産卵。



腹びれや尻びれの縁は黒



二枚貝の中に卵を産むための産卵管

ミヤコタナゴのくらし ~いろいろな生きものとの関わり~



ミヤコタナゴは二枚貝の中に卵を産みます

二枚貝の幼生は、ドジョウやハゼの仲間に付着して育ちます

ミヤコタナゴが生きていくには
多くの生きものとのつながりが必要です

ミヤコタナゴが減ってきた理由

住んでいる環境が変わってしまった

- 水路の壁や底をコンクリートで固めるようになりました。→生きものの住み場所がなくなりました。
- 機械を入れるために、田んぼを乾かすようになりました。→水がないと魚も二枚貝も住めません。
- 農家の減少等により、水路が管理できなくなりました。



管理されなくなった水路

外来種の影響

- 外来のタナゴ（タイリクバラタナゴ、ヤリタナゴ等）が持ち込まれています。→エサや住み場所を奪われてしまいます。→卵を産む二枚貝も奪われてしまいます。



タイリクバラタナゴ(外来種)

密漁の影響

- ミヤコタナゴは、美しい上に貴重な魚なので捕られてしまいます。
- 二枚貝を捕る人もいます。→卵を産めなくなります。
- ドジョウやハゼを捕る人もいます。→二枚貝の幼生が育たなくなります。

人の影響でミヤコタナゴは減少しています
だからこそ
人の力でミヤコタナゴを守ることが必要です

千葉県における主な取り組み

千葉県では、ミヤコタナゴを未来へ残すために、さまざまな取り組みを行っています。

- 水路の整備（草刈り・土手の補修・川底掃除）
- 外来生物（タイリクバラタナゴ等）の防除
- 自治体・警察・地元住民による見回り
- ミヤコタナゴや二枚貝の生息状況調査
- 博物館・水族館等による飼育
- 展示等による普及啓発
- 二枚貝を増やすための技術開発
- 自治体・研究機関・地元による話し合い など



県・市町・研究機関等が、地元住民と連携して保全している水路